

# 教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

令和5年2月16日（木）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告・その他報告事項  
2022年度「第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」について  
新型コロナウイルス感染症への対応について
- 3 審議案件  
教委第64号議案 教職員の人事について  
教委第65号議案 教職員の人事について
- 4 その他

## 教育委員会臨時会 一般報告

### 1 市会関係

- 2/7 本会議（第2日）一般議案上程・質疑・付託、予算上程・説明
- 2/13 こども青少年・教育委員会
- 2/15 本会議（第3日）一般議案議決、予算代表質疑

### 2 市教委関係

#### (1) 主な会議等

- 2/14～2/15 「はまっ子未来カンパニープロジェクト」学習発表会

#### (2) 報告事項

- 2022年度「第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」について
- 新型コロナウイルス感染症への対応について

### 3 その他

## 2022年度「第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」について

### 1 概要

公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団（以下、「安藤財団」と言います。）が主催する2022年度自然体験活動支援事業「第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」において、横浜市立いずみ野小学校が、学校部門で「優秀賞」を受賞しました。

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」は、安藤財団が提唱する「自然体験は子どもたちの体力、創造力、チャレンジ精神を育む」との考えに基づき、全国の学校や団体から自然体験活動の企画案を公募し、その実施を支援するとともに、優秀な活動団体を表彰するものです。

いずみ野小学校では、「いずみ野小地産地消プロジェクト」と銘打って、農作物と綿花の栽培・収穫に取り組み、農作物を給食に活用して子どもたち自身で食べるほか、綿花を使用した作品を作り地域の施設に寄贈するなど、「地産地消」の体験を積み重ねることで郷土愛を育む活動を展開しました。

審査においては、栽培から収穫、活用方法に至るまで、子どもたちがしっかりと関わりながら丁寧に活動を展開している点や、地域の方との協力を密にすることで地域に根差した活動を継続している点が高く評価されました。

なお、いずみ野小学校は2016年度の第15回コンテストにおいて、本取組により「推奨モデル特別賞※」を受賞しており、子どもたちの体験と学びを支えるために、学校と地域が一体となってプロジェクトの推進を継続・発展させることにより、今回の「優秀賞」の受賞に至ったものです。

※プランニングや指導の方法、計画を実施に移す過程など、多くの学校や団体の参考モデルになると認められた企画に贈られる。



### 2 2022年度「第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」

自然体験活動の企画案を公募し、応募された企画案の中からユニークで創造性に富んだ活動を立案した50団体に実施支援金が贈呈されます。

さらに、50団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門は「文部科学大臣賞」と「優秀賞」を、一般部門は「安藤百福賞」と「優秀賞」が選定、表彰されます。そのほかに、「推奨モデル特別賞（4団体）」、「トム・ソーヤー奨励賞（2団体）」、「努力賞（4団体）」が選定されています。

各団体の活動内容はWebサイト「自然体験.com」（<http://www.shizen-taiken.com>）で公開され、自然体験活動の振興が図られています。

裏面あり

(1) 主催

公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団

(2) 審査委員会

委員長 安藤 宏基 公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団 理事長

委員 近藤 謙司 国際山岳ガイド

節田 重節 NPO 法人日本ロングトレイル協会 会長

永井 将史 東京女子体育大学 准教授

星野 敏男 明治大学名誉教授、日本野外教育学会 評議員議長

水野 正人 ミズノ株式会社 相談役会長

(3) 表彰式

日時：令和5年1月28日（土）13：00～15：30

会場：安藤百福発明記念館 横浜（カップヌードルミュージアム横浜）イベントホール

出席者：安藤 宏基 公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団 理事長

朝倉 博美 文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 青少年教育室長

吉川 直友 横浜市こども青少年局長

鯉淵 信也 横浜市教育長

辛坊 治郎 元民放解説委員長、海洋冒険家（講演会講師）

審査委員、受賞団体関係者、一般参加者 計130名

(4) 2022年度の主な表彰団体

学校部門	文部科学大臣賞	大阪市立瓜破西小学校 (大阪府)	瓜西里山 BASE プロジェクト ～学校にワクワクと癒しを！～
	優秀賞	横浜市立いずみ野小学校 (神奈川県)	いずみ野小地産地消プロジェクト
部一般	安藤百福賞	観音崎自然博物館 (神奈川県)	ジュニア生物調査隊
	優秀賞	山村留学人づくりの里運営協議会 (富山県)	源流の山里の暮らしから 森と水と人の繋がりを学ぶ
推奨モデル特別賞		浜松市立豊西小学校 (静岡県)	ふるさと大好き！ のびのび「豊西っ子」を育てる
		大津市立和邇小学校 (滋賀県)	和邇探検 「和邇川の生き物調査と図鑑づくり」
		広島干潟生物研究会 (広島県)	広島デルタの干潟に出かけ、 生き物たちを見て、触って、研究しよう。
		一般社団法人かのあ (北海道)	かのあアウトドアクラブ
トム・ソーヤー 奨励賞		札幌市立澄川南小学校 (北海道)	すみなみ SDGs ～澄川の森で SDGs を体感！実践！～
		NPO 法人森と海の学校 (山口県)	命をまもる「子ども匠の学校」

※ 努力賞受賞団体の記載は省略しています。

## いずみ野小 地産地消プロジェクト

横浜市立いずみ野小学校  
教諭 島村 美月

### 目的

- ①自分たちの作ったもので人が喜んでくれる  
ということを経験する。
- ②人と人、ものともものが繋がって社会が成り  
立っていることを体験する。
- ③コロナ禍で希薄になりつつある地域と学校  
のつながりを改めて感じる。
- ④自然と関わることの大変さと喜びを知る。
- ⑤生命の尊さを感じる

### 企画内容 (現在も継続中)

- お米や野菜などの食べ物や、綿花を栽培することを通して、児童と生産者とのつながりをより活性化させる。また新たな伝統を作る活動を通して、SDGsの視点を意識していずみ野のまちと自然を愛する気持ちをもった児童を育成する。

- ①1～3年生 さつまいもづくり
- ②4～6年生 もち米づくり
- ③4～6年生有志 (教育課程外) 野菜づくり

### 1～3年生 さつまいもづくり

苗植え → 雑草抜き → つる返し →  
つる切り → 収穫



### 4～6年生 もち米づくり

もみまき→代かき・畦づくり→苗取・田植え



### 4～6年生 もち米づくり

→稲刈り→脱穀→選別(唐箕)→もみすり→精米



### 4～6年生有志 野菜づくり

夏野菜づくり (5～7月) 冬野菜づくり (9～12月)



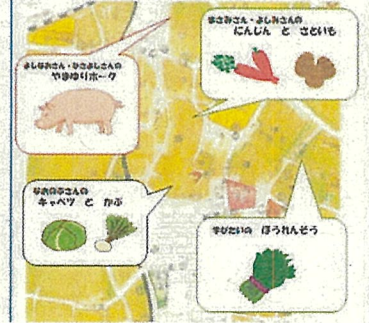
### 4～6年生有志 野菜づくり

学校での広報活動 (通年) 夏祭り (8月)



## 4～6年生有志 野菜づくり

### スーパー給食（12月）



### 活動を通して子どもたちが成長したこと

- ①伝統に感謝することができた。
- ②地域とのつながりを改めて感じた。
- ③作物を大切に食べようという気持ちになった。
- ④命をより大切にしようとする心が育った。



### 活動の課題（職員）



- 子どもたちの活動が主体的なものになるよう、カリキュラムの改善を行っていくこと。
- 天候に左右されることによる、学校行事との調整。



## 新型コロナウイルス感染症への対応について

### 1 教職員・児童生徒の新型コロナウイルス感染状況

冬季休業明けの令和5年1月以降、感染者の報告数は減少傾向となっています。

市立学校では、引き続き、衛生管理マニュアル及び通知等に基づき、感染予防のための取組を徹底しています。

令和5年2月13日（月）から2月14日（火）の感染者数は、児童生徒が172人、教職員が10人、新規学級閉鎖数は2学級となっています。

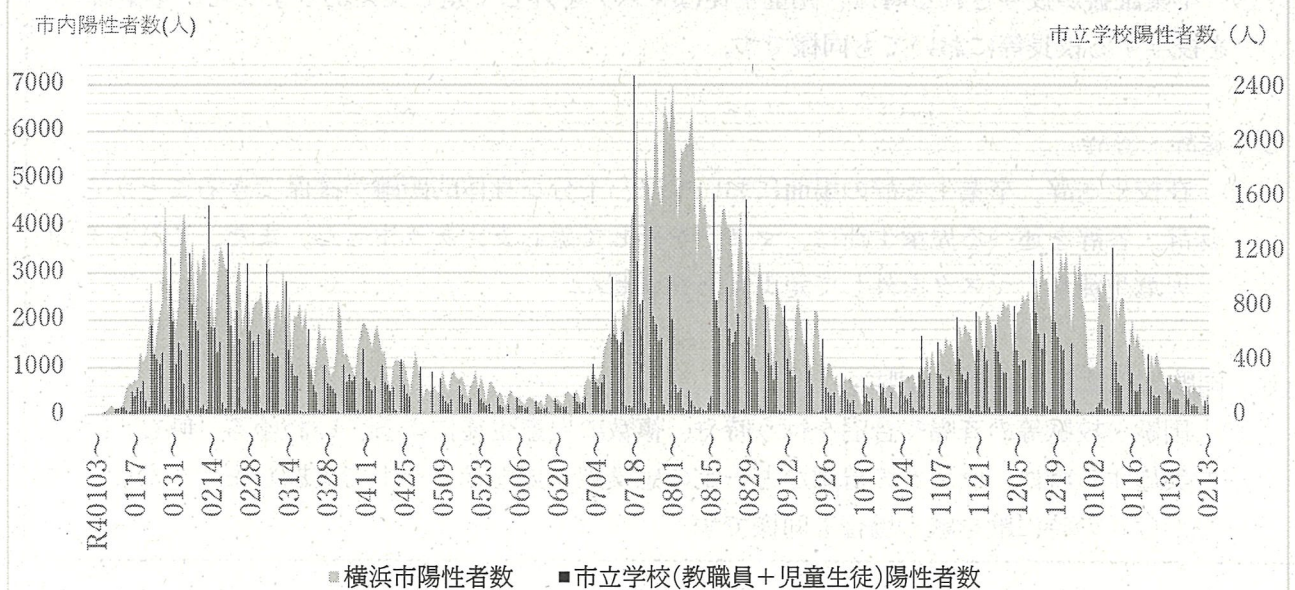
学校関係者の感染者数（1月2日～2月14日の学校からの報告に基づく人数）

集計期間	児童生徒感染者数	教職員感染者数	新規学級閉鎖数
1月2日～1月8日	770	164	0
1月9日～1月15日	2,014	126	1
1月16日～1月22日	1,326	114	19
1月23日～1月29日	1,031	72	21
1月30日～2月5日	778	55	7
2月6日～2月12日	528	31	7
2月13日～2月14日	172	10	2

※ 児童生徒は報告日、教職員は判明日で集計しています。

※ 1月2日からの週は冬季休業期間中のため、感染者の報告数が少なくなっています。

横浜市内の陽性者数と市立学校陽性者数  
（令和4年1月1日以降）





## 2 卒業式におけるマスク着用について

文部科学省より、令和5年2月10日に「卒業式におけるマスクの取扱いに関する基本的な考え方について（通知）」が発出されました。

当該通知では、「卒業式の教育的意義を考慮し、児童生徒及び教職員は、式典全体を通じてマスクを着用せずに出席することを基本」とするとされています。当該通知及び今後の神奈川県等の動向を踏まえ、現在、本市の取扱いを検討中であり、学校現場とも相談して対応していきます。

### <2月10日 文部科学省通知別添「卒業式におけるマスクの取扱い等について」（抜粋）>

#### 1 基本的な考え方

- 児童生徒及び教職員については、入退場、式辞・祝辞等、卒業証書授与、送辞・答辞の場面など、式典全体を通じてマスクを外すことを基本とする。
- 来賓や保護者等はマスクを着用するとともに、座席間に触れ合わない程度の距離を確保した上で、参加人数の制限は不要。

#### 2 入退場

- 児童生徒の入退場時は、マスクを外して差支えありません。

#### 3 式辞等

- 壇上での校長等による式辞や来賓等による祝辞、開式・閉式の辞等の時は、児童生徒との十分な身体的距離が確保されていることから、児童生徒はマスクを外して差支えありません。
- また、壇上で式辞や祝辞等を述べる校長や来賓等も、周囲の者と十分な身体的距離が確保できることから、マスクを外して差支えありません。

#### 4 卒業証書授与

- 卒業証書が授与される時は、児童生徒はマスクを外して差支えありません。卒業証書を授与する校長等においても同様です。

#### 5 送辞・答辞

- 在校生送辞、卒業生答辞の場面においては、十分な身体的距離が確保できることから、送辞・答辞を述べる児童生徒は、マスクを外して差支えありません。また、これらを聞く児童生徒も、マスクを外して差支えありません。

#### 6 国歌・校歌等の斉唱、合唱等

- 国歌・校歌等の斉唱や合唱を行う時や、複数の児童生徒による、いわゆる「呼びかけ」を実施する時は、マスクの着用など一定の感染症対策を講じた上で実施します。なお、「呼びかけ」の時に歌を歌う場合も同様です。

## 7 留意事項

- 卒業式の実施に当たっては、換気対策機器の活用による効果的な換気の実施や、参加者への咳エチケット推奨、手の消毒や手洗い等の手指衛生など、必要な感染症対策を講じること。
- 来賓や保護者等に対してはマスクの着用を求めるとともに、着席を基本とし、座席間に触れ合わない程度の距離を確保すること。その上で、感染対策上での、来賓や保護者等の参加人数の制限は必要ないこと。
- 発熱に限らず、咽頭痛や咳等、普段と異なる症状のある者については、卒業式への参加を控えるよう徹底すること。
- 基礎疾患があるなど様々な事情により、感染不安を抱き、マスクの着用を希望したり、また、健康上の理由によりマスクを着用できない児童生徒もいることなどから、学校や教職員がマスクの着脱を強いることのないようにすること。また、児童生徒の間でもマスクの着用の有無による差別・偏見等がないよう適切に指導を行うこと。
- 卒業式の実施方法については、児童生徒や保護者に対して、丁寧な説明や情報発信を行うこと。